

様式第2号の1-①【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の1-②を用いること。

学校名	城西大学
設置者名	学校法人 城西大学

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

学部名	学科名	夜間・ 通信 制の 場合	実務経験のある 教員等による 授業科目の単位数				省令 で定 める 基準 単位 数	配 置 困 難
			全学 共通 科目	学部 等 共通 科目	専門 科目	合計		
経済学部	経済学科		0	0	14	14	13	
現代政策学部	社会経済 システム学科		0	0	14	14	13	
経営学部	マネジメント 総合学科		0	0	14	14	13	
理学部	数学科 (坂戸・東京紀尾井町)		4	0	10	14	13	
	化学科		0	0	16	16	13	
薬学部	薬学科		0	2	17	19	19	
	薬科学科		0	0	18	18	13	
	医療栄養学科		0	0	13	18	13	
(備考) ● 専門科目には、専門科目以外の科目群（関連科目）の授業科目も含まれる。 ● 実践的教育から構成される授業科目も含まれる。								

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

ポータルサイト (JUnavi) のトップページに掲載する。 https://junavi.josai.ac.jp/camweb/top.do

3. 要件を満たすことが困難である学部等

学部等名
(困難である理由)

様式第2号の2-①【(2)-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第2号の2-②を用いること。

学校名	城西大学
設置者名	学校法人 城西大学

1. 理事（役員）名簿の公表方法

ホームページにて公表 https://www.josai.jp/about/director/
--

2. 学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容 や期待する役割
非常勤 浅島 誠 理事	帝京大学先端総合研究 機構特任教授学術顧問	2023. 4. 1 ~ 2027. 3. 31	学術研究に関する 指導、助言及び管 理、監督
非常勤 上原 明 理事	大正製薬ホールディン グス(株)代表取締役社 長	2021. 4. 1 ~ 2025. 3. 31	大学経営全般に関 する指導、助言及び 管理、監督
非常勤 黒川 達夫 理事	(一社)日本バイオシミ ラー協議会理事長	2022. 8. 1 ~ 2026. 7. 31	大学経営全般に関 する指導、助言及び 管理、監督
非常勤 羽入 佐和子 理事	帝京大学先端総合研究 機構特任教授	2021. 4. 1 ~ 2025. 3. 31	学術研究に関する 指導、助言及び管 理、監督
非常勤 吉本 高志 理事	(一財)脳神経疾患研究 所最高顧問	2021. 4. 1 ~ 2025. 3. 31	大学経営全般に関 する指導、助言及び 管理、監督
非常勤 リピット 水田 堯 理事	米国 南カリフォルニア 大学映画芸術学部副学 部長	2024. 4. 1 ~ 2028. 3. 31	学術研究に関する 指導、助言及び管 理、監督
(備考)			

様式第2号の3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	城西大学
設置者名	学校法人 城西大学

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画書(シラバス)を作成し、公表していること。

(授業計画書の作成・公表に係る取組の概要)

○授業計画書（シラバス）の作成過程について

シラバス掲載内容及び作成にあたっての留意は以下のとおり

(1) 科目基本情報

- ① 科目名
- ② 配当年次
- ③ 開講期間
- ④ 単位数
- ⑤ 担当教員名
- ⑥ 期間・曜日・時限・教室

(2) 授業の目的・目標等

- ① 授業の概要
- ② 授業の目的・目標
- ③ 習得できる力
- ④ 授業の到達目標
- ⑤ 実務経験のある教員による授業科目
※実務経験を有する教員の場合は記述する。

(3) 準備学習の指示

(4) 講義スケジュール

(5) 教科書

(6) 参考文献

(7) 授業の方法

(8) 成績評価方法

※到達目標の達成度を測定できる方法と基準を記述してください。

- ・評価方法
- ・割合
- ・評価基準 など

(9) オフィスアワー、居室、ホームページ

(10) その他特記事項

なお、シラバス作成にあたり、3つのポリシー及び当該学部・学科のカリキュラムポリシーに準じて記述するよう留意し作成している（結果として大学の教育の質の保証に繋がることを意識し作成にあたる）。

○授業計画の作成・公表時期

例年、前年度の10月中旬頃に各教員が担当する授業担当科目が決定する。

それに伴い、11月初旬ごろからそれぞれの教員がシラバスの作成を行い、学部内のチェックを得て新年度までに完成させる。

公表方法及び公表時期については、当該年度開始と同時に大学のポータルサイト(JUnavi)や大学ホームページから閲覧できるようになっている。

授業計画書の公表方法

ポータルサイト(JUnavi)のトップページから授業計画(シラバス)の閲覧が可能となっている。

<https://junavi.josai.ac.jp/camweb/top.do>

2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。

(授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要)

それぞれの学部、学科にて学年毎に履修すべき科目や選択科目を設置している。

授業は原則として、春学期・秋学期それぞれ105分授業を基本（実験・実習は除く）とし、13週の授業で構成している。さらに1年間の履修上限を設定することで、学生の各授業科目の学習時間の確保を行い、単位制度の実質化につなげている。

履修した授業科目に対しては、あらかじめシラバスで記してある成績評価方法（試験やその他の評価方法〈課題・レポート等〉により評価をしている。なお、いずれの授業科目も授業時数の1/3以上欠席した場合には、原則として当該授業科目の受験資格を失うこととしている。

○単位授与及び成績評価基準について

学生が履修した授業科目に対して、試験その他の方法（レポート等）により学習評価をしたうえで、その単位を認定する。単位認定の評価は、S・A・B・Cにより単位を修得したことを示す。評価の基準については、次のとおりとなっている。

成績評価	評価基準（点）	合否
S	100～90	合格
A	89～80	合格
B	79～70	合格
C	69～60	合格
F	59 以下	不合格

3. 成績評価において、GPA等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。

(客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要)

成績評価方法及び評価基準については大学設置基準に基づいて、学則第42条ならびにシラバスに記載されている。本学では、GPA制度を導入しており、学生は自らの学習成果の推移を知り、学修の自己管理ができるようになっている。GPAの結果は、学科毎に通知する成績表や成績証明書に記載している。

学生便覧に示されている成績評価の基準は、100点満点で、100～90点が「S」評価、89～80点が「A」評価、79～70点が「B」評価、69～60点が「C」評価で、以上が合格とし、59点以下が「F」評価の不合格となる。それぞれのGPAのポイントは、4、3、2、1、0となっている。

単位については、大学設置基準に基づき学則第41条で定められている。

(GPAの基準)

成績評価 (表示)	評価の基準 (点)	合否	G P
S	100～90	合格	4
A	89～80	合格	3
B	79～70	合格	2
C	69～60	合格	1
F	59 以下	不合格	0
T	追試験受験可能	未受験 (不合格)	0
Z	失格	不合格	0

〈GPA×当該科目の単位数〉の合計

$$GPA = \frac{\text{履修登録科目の単位数の合計 (T評価、F評価、Z評価を含む)}}{\text{履修登録科目の単位数の合計 (T評価、F評価、Z評価を含む)}}$$

※不合格となった科目を次年度以降に再履修して合格した場合には、成績は上書きされ、過去の不合格の成績は、GPA計算式に算入されない。

客観的な指標の
算出方法の公表方法

〈成績評価基準〉

学生便覧の「履修の手引と手続」に掲載している。

【学生便覧入手方法】

城西大学ホームページにて入手可能

https://www.josai.ac.jp/for_students/handbook-for-students/2024_binran/

4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。

卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要)

○経済学部

経済学部経済学科は、建学の精神「学問による人間形成」に基づき、地域や国際社会の発展に貢献できる人物を育成します。本学科で学んだ学生がこのような人間に成長したことを、以下の 資質・能力を身につけたかという視点で評価し、経済学部経済学科の学位授与方針に従って卒業 を認定し、学士（経済学）の学位を授与します。

1. 学問における学びを通じて、教養を高め、自らの人間形成の基礎を培い、倫理観・責任感を身につけ、常に社会の状況と課題・ニーズに関心を持ち、人類文化の発展に貢献しようとする心 構えを有している。
2. 大学での学びを通して、自己と他者とを尊重し、他者との対話を通して互いの理解を深め、他者と力を合わせて何かを作り上げていくことを意味する“協創”によって、社会に存在する様々な問題の解決を目指す志を有している。また、グローバルコミュニケーションにおいて求められる基礎的な英語力を有している。
3. 経済学に関する基礎ならびに経済学部経済学科でコースとして設定している「アジア・国際経済」「企業・産業経済」「金融・証券経済」「地域・環境経済」「データサイエンス」のいずれかの分野における応用力を身につけ、併せて教養を高めることを通じて、自らの人間形成の基礎を培い、将来にわたり自らを成長させようとする心構えを有している。

-卒業要件-

(学則第43条)

卒業するために、必要とされる最低単位数は、次のとおりとする。

経済学部

全学共通基盤科目	3 単位
基本科目	20 単位
専門科目〔第一分野〕	52 単位
関連科目〔第二分野〕	49 単位
計	124 単位

○現代政策学部

現代政策学部社会経済システム学科は、建学の精神「学問による人間形成」に基づき、多様な文化を認め合う社会の実現に向けて貢献できる人物を育成します。本学部学科で学んだ学生がこのような人間に成長したことを、以下の資質・能力を身につけたかという視点での評価と、以下の知識や技能を身につけたかという視点での審査により、学士の学位を授与します。

1. 学問における学びを通じて、教養を高め、国際社会や地域社会の一員としての倫理観・責任感を身につけ、常に社会の課題とニーズに関心を持ち、人類文化の発展に貢献しようとする心構えを身につけている。
2. 大学での学びを通して、自己と他者とを尊重し、他者との対話を通して互いの理解を深め、他者と力を合わせて何かを作り上げていく“協創”を通して、社会や文化の発展のために課題の発見と解決を目指す志を有している。また、異文化を理解しコミュニケーションを取れる語学力の基礎を有している。
3. 自らの人間形成の基礎と、将来にわたり自らを成長させようとする心構えを培うために、政策学を中軸として複数の主要分野（政治、法律、経済、文化、地域、国際、福祉、情報）を横断的に履修して専門知識や技能を修得し、併せて幅広い教養や思考力・判断力を身につけている。

-卒業要件-

(学則第43条)

卒業するために、必要とされる最低単位数は、次のとおりとする。

現代政策学部

全学共通基盤科目	3単位	
基本科目（演習科目）	16単位	
基本科目（語学科目）	4単位	
基本科目（政策系科目）	4単位	
基本科目（キャリア科目）	2単位	
専門科目	52単位	分野領域主要科目を 8単位以上（選択必修）
関連科目	43単位	導入基礎科目を 6単位以上（選択必修）
計	124単位	

○経営学部

経営学部マネジメント総合学科は、建学の精神「学問による人間形成」に基づき、アントレプレナーシップ（企業家精神）を有し、経営学固有の視点から地域や国際社会の発展に貢献できる人物を育成します。本学で学んだ学生がこのような人間に成長したことを、以下の資質・能力を身につけたかという視点で評価し、各学部・学科の学位授与方針に従って卒業を認定し、学士の学位を授与します。 ※各学科の作成については、APの下をご確認ください。

1. 学問における学びを通じて、思考力・判断力を高めるとともに、倫理観・責任感を身につけ、常に社会の状況と課題・ニーズに関心を持ち、人類文化の発展に貢献しようとする心構えを有している。
2. 大学での学びを通して、自己と他者とを尊重し、他者との対話を通して互いの理解を深め、他者と力を合わせて何かを作り上げていくことを意味する“協創”によって、社会に存在する様々な問題の解決を目指す志を有している。また、グローバルコミュニケーションにおいて求められる基礎的な英語力を有している。
3. 「経営管理論」「会計学」「商学」「経営工学」「経営情報学」に関する基礎を身につけ、それらを統合する組織運営に関する学びと、教養を高めることを通じて、自らの人間形成の基礎を培い、将来にわたり自らを成長させようとする心構えを有している。

-卒業要件-

(学則第43条)

卒業するために、必要とされる最低単位数は、次のとおりとする。

経営学部

全学共通基盤科目	3単位
基本科目	28単位
専門科目	65単位
〔入門分野〕	〔3単位〕
〔共通基礎分野〕	〔12単位〕
〔共通基幹分野〕	〔14単位〕
〔共通展開分野〕	〔10単位〕
〔共通キャリア分野〕	〔2単位〕
〔コース基礎分野〕	〔2単位〕
〔コース基幹分野〕	〔12単位〕
〔コース展開分野〕	〔8単位〕
〔コース実践分野〕	〔2単位〕
関連科目	24単位
横断科目	4単位
計	124単位

○理学部

城西大学理学部は、建学の精神「学問による人間形成」に基づき、理学の本質を論理的・実証的に解析、考察する能力を持ち、地域社会や国際社会の持続的な発展に貢献できる人物を育成します。本学科で学んだ学生がこのような人間に成長したことを、以下の資質・能力を身につけたかという視点で評価し、各学科の学位授与方針に従って卒業認定を行い、学士の学位を授与します。

学修目標

1. 学問における学びにおいて、高い思考力・判断力を形成するとともに、倫理観と責任感を身につけ、常に社会の状況と課題・ニーズに関心を持ち、人類文化の発展に貢献しようとする心構えを有している。
2. 理学部での数学や化学の学びを通して、自己と他者とを尊重し、他者との対話を通して互いの理解を深め、他者と力を合わせて何かを作り上げていくことを意味する“協創”によって、社会に存在する様々な問題の解決を目指す志を有している。また、グローバルコミュニケーションにおいて求められる基礎的な英語力を有している。
3. 理学部での数学や化学の学びを通して、実社会における自然科学や科学技術の発展に、主体的かつ協働的に貢献するための数学や化学の知識・技能の基礎を有している。

【理学部 数学科】

城西大学理学部数学科は、建学の精神「学問による人間形成」に基づき、現実の諸問題を数理的に理解・解決し、地域や国際社会の発展に貢献できる人物を育成します。本学科で学んだ学生がこのような人間に成長したことを、以下の資質・能力を身につけたかという視点で審査を行い、学士の学位を授与します。

(個人の学問に取り組む態度の評価)

1. 学問における学びの中で、教養を高め、自らの人間形成の基礎を培い、論理的思考力・数理的判断力を高めるとともに、倫理観・責任感を身につけ、常に社会の状況と課題・ニーズに関心を持ち、人類文化の発展に貢献しようとする心構えを有している。(学問に協力して取り組む態度の評価)
2. 大学での学びを通して、自己と他者とを尊重し、他者との対話を通して互いの理解を深め、他者と力を合わせて何かを作り上げていくことを意味する“協創”によって、社会に存在する様々な問題の解決を目指す志を有している。また、数理的な内容を他者にわかりやすく、かつ論理的に説明する能力、及びグローバルコミュニケーションにおいて必須である基本的な英語力を有している。

(専門分野の学習に関する評価)

3. 自身の専門に関する学びを通して、数学の知識と応用及び ICT によって現代社会の多様な問題の解決に貢献する意欲を有し、そのための技術と能力を身につけて、将来にわたり自らの専門性を高めていこうとする心構えを有している。

-卒業要件-

(学則第43条)

卒業するために、必要とされる最低単位数は、次のとおりとする。

理学部 数学科

全学共通基盤科目	3 単位	} 外に、7 単位
基本科目	8 単位	
専門科目	8 8 単位	
関連科目	1 8 単位	
計	1 2 4 単位	

【理学部 化学科】

城西大学理学部化学科は、建学の精神「学問による人間形成」に基づき、化学を通じて地域社会や国際社会の持続的な発展に貢献できる人物を育成します。本学科で学んだ学生がこのような人間に成長したことを、以下の資質・能力を身につけたかという視点で評価し、理学部化学科の学位授与方針に従って卒業認定を行い、学士の学位を授与します。

学修目標

1. 化学を学ぶ中で形成された思考力・判断力を高めるとともに、倫理観と責任感を身につけ、常に社会の状況と課題・ニーズに関心を持ち、人類文化の発展に貢献しようとする心構えを有している。
2. 大学での化学の学びを通して、自己と他者とを尊重し、他者との対話を通して互いの理解を深め、他者と力を合わせて何かを作り上げていくことを意味する“協創”によって、社会に存在する様々な問題の解決を目指す志を有している。また、グローバルコミュニケーションにおいて求められる基礎的な英語力を有している。
3. 化学の専門に関する学びを通して、実社会における他の自然科学や科学技術の発展に、主体的かつ協働的に貢献するための化学の知識・技能の基礎を有している。

-卒業要件-

(学則第43条)

卒業するために、必要とされる最低単位数は、次のとおりとする。

理学部 化学科

全学共通基盤科目	3 単位
基本科目	8 単位
専門科目	9 8 単位
関連科目	1 5 単位
計	1 2 4 単位

○薬学部

城西大学薬学部は、建学の精神「学問による人間形成」に基づき、人々の健康な生活を護り、地域や社会の発展に薬学分野の専門家として貢献できる人物を育成します。本学部で学んだ学生がこのような人間に成長したことを、以下の資質・能力を身につけたかという視点で評価を行い、学士の学位を授与します。

1. 学問における学びを通じて、教養を高め、自らの人間形成の基礎を培い、倫理観・責任感を身につけ、常に社会の状況と課題・ニーズに関心を持ち、人類文化の発展に貢献しようとする心構えを有している。
2. 大学での学びを通して、自己と他者とを尊重し、他者との対話を通して互いの理解を深め、他者と力を合わせて何かを作り上げていくことを意味する“協創”によって、社会に存在する様々な問題の解決を目指す志を有している。また、グローバルコミュニケーションにおいて求められる基礎的な英語力を有している。
3. 薬学に関する学びにより、社会のニーズに対応した健康や医療に関する幅広い知識と技能を身につけるとともに、思考力・判断力を高め、将来にわたり薬学分野の専門家として自らを成長させようとする心構えを有している。

【薬学部 薬学科】

城西大学薬学部薬学科は、建学の精神「学問による人間形成」に基づき、薬に関わる専門家としての視点から医療の発展に薬剤師として貢献できる人物を育成します。本学科で学んだ学生がこのような人間に成長したことを、以下の資質・能力を身につけたかという視点で評価を行い、学士（薬学）の学位を授与します。

1. 学問における学びを通じて、教養を高め、自らの人間形成の基礎を培い、倫理観・責任感を身につけ、常に社会の状況と課題・ニーズに関心を持ち、医療人としてのありべき姿を模索しつつ、医療の発展に貢献しようとする心構えを身につけている。
2. 大学での学びを通して、自己と他者とを尊重し、他者との対話を通して互いの理解を深め、薬に関わる専門家として人々の生活に積極的に関わることで、他者と力を合わせて何かを作り上げていくことを意味する“協創”を実践し、社会に存在する様々な問題の解決を目指す志を有している。また、グローバルコミュニケーションにおいて求められる基礎的な英語力を有している。
3. 健康や医療に関する幅広い知識と技能といった薬剤師としての基本的資質に直結する能力とともに、医療栄養、高度地域医療、法医学、もしくは最先端医療に関する高い専門性を獲得し、またそれらの学びを通じて思考力・判断力を高め、将来にわたり自らの専門性を高めようとする心構えを有している。

-卒業要件-

(学則第43条)

卒業するために、必要とされる最低単位数は、次のとおりとする。

薬学部 薬学科

全学共通基盤科目	3単位
基本科目	6単位
専門科目	168単位
関連科目	9単位
計	186単位

【薬学部 薬科学科】

城西大学薬学部薬科学科は、建学の精神「学問による人間形成」に基づき、人々の健康な生活を護り、地域や国内、国際社会の発展に薬科学の専門家として貢献できる人物を育成します。本学科で学んだ学生がこのような人間に成長したことを、以下の資質・能力を身につけたかという視点で評価を行い、学士（薬科学）の学位を授与します。

1. 学問における学びを通じて、教養を高め、自らの人間形成の基礎を培い、倫理観・責任感を身につけ、常に社会の状況と課題・ニーズに関心を持ち、薬科学の発展に貢献しようとする心構えを有している。
2. 大学での学びを通して、自己と他者とを尊重し、他者との対話を通して互いの理解を深め、他者と力を合わせて何かを作り上げていくことを意味する“協創”によって、社会に存在する様々な問題の解決を目指す志を有している。また、グローバルコミュニケーションにおいて求められる基礎的な英語力を有している。
3. 薬科学に関する学びにより、医薬品、食品、化粧品、化成品の有効性・安全性に関する専門知識とそれらを取り扱うための技能、ならびにそれらの研究・開発に携わることで高い思考力・判断力を獲得し、それらを人々の健康な生活に活かす能力を身につけているとともに、将来にわたり医薬品、食品、化粧品、化成品の学際的領域の専門家として自らを成長させようとする心構えを有している。

-卒業要件-

(学則第43条)

卒業するために、必要とされる最低単位数は、次のとおりとする。

薬学部 薬科学科

全学共通基盤科目	3単位
基本科目	6単位
専門科目	109単位
関連科目	6単位
計	124単位

【薬学部 医療栄養学科】

城西大学薬学部医療栄養学科は、建学の精神「学問による人間形成」に基づき、人々の健康な生活を護り、栄養学や医療の発展に貢献できる人物を育成します。本学科で学んだ学生がこのような人間に成長したことを、以下の資質・能力を身につけたかという視点で評価を行い、学士（医療栄養学）の学位を授与します。

1. 学問における学びを通じて、教養を高め、自らの人間形成の基礎を培い、倫理観・責任感を身につけ、常に社会の状況と課題・ニーズに関心を持ち、人類文化の発展に貢献しようとする心構えを有している。
2. 大学での学びを通して、自己と他者とを尊重し、他者との対話を通して互いの理解を深め、他者と力を合わせて何かを作り上げていくことを意味する“協創”によって、社会に存在する様々な問題の解決を目指す志を有している。また、グローバルコミュニケーションにおいて求められる基礎的な英語力を有している。
3. 社会のニーズに対応した健康や医療に関する幅広い知識と技能といった管理栄養士としての基本的資質に直結する能力とともに、地域医療、臨床栄養、予防医学、もしくは最先端医療に関する高い専門性を獲得し、ならびに、その学びを通じて思考力・判断力を高め、将来にわたり医療栄養学の専門家として自らを成長させようとする心構えを有している。

-卒業要件-

(学則第43条)

卒業するために、必要とされる最低単位数は、次のとおりとする。

薬学部 医療栄養学科

全学共通基盤科目 3単位

基本科目 5単位

専門科目 116単位

関連科目 6単位

計 130単位

【卒業判定の手順】

最終学年（4年生〈薬学科は6年生〉）の成績評価表を基に、各学部にて定められた卒業要件にそって、科目の成績評価が適切に行われているか確認を行った上で、卒業可否を決定する。各学部において定められた、分野ごとの科目評価を確認する。なお、学生に対する卒業可否についての発表は「卒業発表日」（年間行事予定表に掲載）に行う。

卒業の認定に関する
方針の公表方法

大学ホームページにて公表

<https://www.josai.ac.jp/about/operation/policy/>

なお、卒業に必要な科目及び単位数については、『学生便覧』の「履修の手引と手続」「城西大学学則」に掲載している。

【学生便覧入手方法】

城西大学ホームページにて入手可能

https://www.josai.ac.jp/for_students/handbook-for-students/2024_binran/

様式第2号の4-①【(4)財務・経営情報の公表(大学・短期大学・高等専門学校)】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の4-②を用いること。

学校名	城西大学
設置者名	学校法人 城西大学

1. 財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	https://www.josai.ac.jp/media/reiwa5_kesannsyo.pdf
収支計算書又は損益計算書	https://www.josai.ac.jp/media/reiwa5_kesannsyo.pdf
財産目録	https://www.josai.ac.jp/media/reiwa5_zaisanmokuroku.pdf
事業報告書	https://www.josai.ac.jp/media/reiwa5_jigyohoukokusyo.pdf
監事による監査報告(書)	https://www.josai.ac.jp/media/reiwa5_kanssahoukokusyo.pdf

2. 事業計画(任意記載事項)

単年度計画(名称:学校法人城西大学2024年度事業計画 対象年度:2024年度)
公表方法:ホームページ https://www.josai.jp/about/plan/project/pdf/jigyokeikaku_2024(2).pdf
中長期計画(名称:学校法人城西大学中期計画 対象年度:2020~2024年度)
公表方法:ホームページ https://www.josai.jp/about/plan/pdf/chukikeikaku.pdf

3. 教育活動に係る情報

(1) 自己点検・評価の結果

公表方法:ホームページ https://www.josai.ac.jp/about/efforts/evaluation/

(2) 認証評価の結果(任意記載事項)

公表方法:ホームページ https://www.josai.ac.jp/about/efforts/evaluation/

(3) 学校教育法施行規則第 172 条の 2 第 1 項に掲げる情報の概要

①教育研究上の目的、卒業又は修了の認定に関する方針、教育課程の編成及び実施に関する方針、入学者の受入れに関する方針の概要

学部等名 経済学部
教育研究上の目的 (公表方法: ホームページ) https://www.josai.ac.jp/media/2_2023_keizai_rinen_mokuteki.pdf
(概要) 城西大学経済学部は、常に新しい時代を視野に入れ、学際的な研究・教育を実践します。さまざまな個性、文化的背景を持つ学生が、学問を通して、論理的・多面的に考え、自ら問題解決する力を養い、それぞれの個性を伸ばし、地域や国際社会でそれらを生かしたキャリアを形成していくことができるよう教育を行います。
卒業又は修了の認定に関する方針 (公表方法: ホームページ) https://www.josai.ac.jp/media/01keizai2023.pdf
(概要) 経済学部経済学科は、建学の精神「学問による人間形成」に基づき、地域や国際社会の発展に貢献できる人物を育成します。本学科で学んだ学生がこのような人間に成長したことを、以下の資質・能力を身につけたかという視点で評価し、経済学部経済学科の学位授与方針に従って卒業を認定し、学士(経済学)の学位を授与します。 1. 学問における学びを通じて、教養を高め、自らの人間形成の基礎を培い、倫理観・責任感を身につけ、常に社会の状況と課題・ニーズに関心を持ち、人類文化の発展に貢献しようとする心構えを有している。 2. 大学での学びを通して、自己と他者とを尊重し、他者との対話を通して互いの理解を深め、他者と力を合わせて何かを作り上げていくことを意味する“協創”によって、社会に存在する様々な問題の解決を目指す志を有している。また、グローバルコミュニケーションにおいて求められる基礎的な英語力を有している。 3. 経済学に関する基礎ならびに経済学部経済学科でコースとして設定している「アジア・国際経済」「企業・産業経済」「金融・証券経済」「地域・環境経済」「データサイエンス」のいずれかの分野における応用力を身につけ、併せて教養を高めることを通じて、自らの人間形成の基礎を培い、将来にわたり自らを成長させようとする心構えを有している。
教育課程の編成及び実施に関する方針 (公表方法: ホームページ) https://www.josai.ac.jp/media/01keizai2023.pdf
(概要) 経済学部経済学科は、建学の精神「学問による人間形成」に基づき定めたディプロマポリシーに示す学修目標に、全ての学生が到達するように、以下の方針でカリキュラムを構築します。 1. 人間形成の過程で必要となる学びを提供するために、物事を多角的に捉える力、社会と学問との接点を探究する姿勢、人類文化社会へ貢献するための意識を養うという視点で、全学部共通科目を含む必修科目を学生の段階的な成長を促すように各学年に設定する。その評価は自己評価を基本とし、長期型ルーブリック*を用いた評価をポートフォリオ*に蓄積して学生自身による振り返りを促すとともに、教員による学びの促進を意図した形成的評価を随時実施する。*長期型ルーブリック: ルーブリックは、学習目標の達成段階を質として表した表で、長期型ルーブリックは、入学から卒業までの成長を継続的に評価するのに有効なツールです。*ポートフォリオ: 学習成果物を時系列に沿って蓄積していったファイルで、学生の段階的な成長を確認するために有効なツールです。 2. “協創”による社会問題の解決に取り組むために、全学部の学生が協力して課題解決を創造する「学内外連携授業」を必修科目として各学年に設定する。その評価には、教員による評価だけでなく、ルーブリックを用いた自己評価・ピア評価など多様な視点を取り入れ、学習の成果物はポートフォリオに蓄積して、自身の振り返りを促す。英語力については、大学共通基本科目において習熟度別のクラス編成を実施して、個人のレベルに合った学習

<p>を可能にする。</p> <p>3. 経済学部経済学科において求める専門性と教養を獲得するという視点でカリキュラムを策定し、人間形成につながる学問の基礎を培う。そのために、経済学部経済学科では、学習の多様性は保証しつつ、学生が学習目標を設定しやすく、卒業時における自身の専門性が明確化できるようにコース制を導入し、それぞれのコースに応じた選択必修科目を設定している。これらの評価には、学生の学習活動の改善を目的とした形成的評価を適宜行い、期末に記述式試験を実施するだけでなく、各科目の特性に合わせた様々な評価方法を適用して、合否の判定を伴う総括的評価を実施する。その成果については GPA を用いて学生に対してフィードバックを行う。</p>
<p>入学者の受入れに関する方針（公表方法：ホームページ）</p> <p>https://www.josai.ac.jp/media/01keizai2023.pdf</p>
<p>（概要）経済学部経済学科では、自身の発見や自身を大きく成長させるために必要な学びを提供し、物事を多角的に捉える力、社会と学問との接点を探究する姿勢、社会貢献への意識を養う教育を行います。そのため以下の資質・能力もしくは志向を有する人に入学を期待します。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 多様な事象に興味を持ち、人々の暮らしにおける課題・ニーズは何かという視点を持って、社会のルールに従って、責任感を持って行動し、自己の理想に向かって学ぶ意思を有する人 2. 他者との対話を通して自らを高め、他者と協力して社会の課題に取り組む意思を有する人 3. 自らが学ぼうとする経済学部経済学科における専門的な学びを修め、教養を高める意欲があり、そのために必要な経済学部経済学科で指定する教科（英語、国語、社会科、数学）の学習に取り組んでいる人 <p>経済学部経済学科のアドミッション・ポリシーに基づき、多様な形態の入学試験によって、学力の三要素、すなわち、「知識・技能」、「思考力・判断力・表現力」、「主体性・多様性・協働性」などの資質・能力を評価し、経済学部経済学科の教育目的に相応しい人材を選抜します。</p>

<p>学部等名 現代政策学部</p>
<p>教育研究上の目的（公表方法：ホームページ）</p> <p>https://www.josai.ac.jp/media/3_2023_gensei_rinen_mokuteki.pdf</p>
<p>（概要）現代政策学部は、政策学を中核とする学びとリベラルアーツ科目の学びにより、地域社会とグローバル社会の課題発見・解決のための知識とスキルを活用できる人材、生涯にわたり自律的に学び続けることができる人材、および高い倫理観を持ち社会貢献できる人材を育成すること、並びに幅広い学問分野において新しい価値を創造してその研究成果を教育や社会で実践することを教育研究上の目的とします。</p>
<p>卒業又は修了の認定に関する方針（公表方法：ホームページ）</p> <p>https://www.josai.ac.jp/media/02gendai2023.pdf</p>
<p>（概要）現代政策学部社会経済システム学科は、建学の精神「学問による人間形成」に基づき、多様な文化を認め合う社会の実現に向けて貢献できる人物を育成します。本学部学科で学んだ学生がこのような人間に成長したことを、以下の資質・能力を身につけたかという視点での評価と、以下の知識や技能を身につけたかという視点での審査により、学士の学位を授与します。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 学問における学びを通じて、教養を高め、国際社会や地域社会の一員としての倫理観・責任感を身につけ、常に社会の課題とニーズに関心を持ち、人類文化の発展に貢献しようとする心構えを身につけている。 2. 大学での学びを通して、自己と他者とを尊重し、他者との対話を通して互いの理解を深め、他者と力を合わせて何かを作り上げていく“協創”を通して、社会や文化の発展のために課題の発見と解決を目指す志を有している。また、異文化を理解しコミュニケーション

<p>ンを取れる語学力の基礎を有している。</p> <p>3. 自らの人間形成の基礎と、将来にわたり自らを成長させようとする心構えを培うために、政策学を中軸として複数の主要分野（政治、法律、経済、文化、地域、国際、福祉、情報）を横断的に履修して専門知識や技能を修得し、併せて幅広い教養や思考力・判断力を身につけている。</p>
<p>教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：ホームページ） https://www.josai.ac.jp/media/02gendai2023.pdf</p>
<p>（概要）現代政策学部社会経済システム学科は、建学の精神「学問による人間形成」に基づき定めたディプロマ・ポリシーに示す学修目標に、全ての学生が到達するように、以下の方針でカリキュラムを構築します。</p> <p>1. 人間形成の過程で必要となる学びを提供するために、物事を多角的に捉える力、社会と学問との接点を探究する自立的な姿勢と倫理観、人類文化社会へ貢献するための意識を養うという視点で本学部学科のカリキュラムを策定し、そのために必要な全学部共通科目を含む必修科目・演習科目・キャリア系科目を学生の段階的な成長を促すように設定する。その評価は、論述考査等による審査のほか、長期型ルーブリックを用いた学生自身による自己評価と振り返りを基本として、総括的に行う。</p> <p>2. “協創”による社会問題の解決に取り組むための課題解決型授業、学内外連携授業等の科目を、全学共通科目を含めて設定し、系統的にカリキュラムに組み込む。その評価には、論述考査等による審査のほか、ルーブリックを用いた自己評価・ピア評価を含めた多様な視点を取り入れ、学習の成果物はポートフォリオに蓄積して、自身の振り返りを促す。語学力については、大学共通基本科目を含む外国語・日本語の必修科目において、個人のレベルに合った学習を可能にする。</p> <p>3. 現代政策学部社会経済システム学科において求める専門知識や技能の修得、および幅広い分野に関する教養を身につけるという視点でカリキュラムを策定し、政策学と学生自身が設定した政策分野に通じた人間を育成する。政策学については必修科目を設定し、政策学に関連する科目については、学生が自ら自身の学びを選択できるよう、複数の主要分野（政治、法律、経済、文化、地域、国際、福祉、情報）を選択必修科目として設定する。加えて「公共政策」「地域創生」「多文化社会」の3コースを設定し、学生の目標に沿った順次性のある体系的な学びを実現する。各科目の評価には形成的評価を取り入れ、論述考査等による審査のほか、各科目の特性に合わせて総括的評価を実施し、その成果については GPA 等を用いて学生に対してフィードバックを行う。</p>
<p>入学者の受入れに関する方針（公表方法：ホームページ） https://www.josai.ac.jp/media/02gendai2023.pdf</p>
<p>（概要）現代政策学部社会経済システム学科では、自身の発見や自身を大きく成長させるために必要な学びを提供し、社会を多角的に捉える力、社会と学問との接点を探究する姿勢、社会貢献への意識を養う教育を行います。そのため以下の資質・能力もしくは志向を有する人に入学を期待します。</p> <p>1. 多様な事象に興味を持ち、人々の暮らしにおける課題・ニーズは何かという視点を持って、社会のルールに従って、責任感を持って行動し、自己の理想に向かって学ぶ意思を有する人</p> <p>2. 他者との対話を通して自らを高め、他者と協力して社会の課題に取り組む意思を有する人</p> <p>3. 現代政策学部社会経済システム学科における専門知識や技能を修得し、幅広い分野に関する教養を身につける意欲があり、そのために必要な本学部学科で指定する教科の学習に取り組んでいる人</p> <p>現代政策学部社会経済システム学科のアドミッション・ポリシーに基づき、多様な形態の入学試験によって、学力の三要素、すなわち「知識・技能」、「思考力・判断力・表現力」、「主体性・多様性・協働性」等の資質・能力を評価し、本学部学科の教育目的に相応しい人材を選抜します。</p>

学部等名 経営学部
<p>教育研究上の目的（公表方法： ホームページ） https://www.josai.ac.jp/media/4_2023_keiei_rinen_mokuteki.pdf</p> <p>（概要）経営学部は、営利組織だけでなく非営利組織も含めた社会におけるすべての組織に適合するマネジメントを学際的に研究し教育することにより、グローバルな視点とローカルな視点を持ち、新しい社会と産業を創造するプロフェッショナルの育成を目指します。</p>
<p>卒業又は修了の認定に関する方針（公表方法： ホームページ） https://www.josai.ac.jp/media/03keiei2023.pdf</p> <p>（概要）経営学部マネジメント総合学科は、建学の精神「学問による人間形成」に基づき、アントレプレナーシップ（企業家精神）を有し、経営学固有の視点から地域や国際社会の発展に貢献できる人物を育成します。本学で学んだ学生がこのような人間に成長したことを、以下の資質・能力を身につけたかという視点で評価し、各学部・学科の学位授与方針に従って卒業を認定し、学士の学位を授与します。 ※各学科の作成については、APの下をご確認ください。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 学問における学びを通じて、思考力・判断力を高めるとともに、倫理観・責任感を身につけ、常に社会の状況と課題・ニーズに関心を持ち、人類文化の発展に貢献しようとする心構えを有している。 2. 大学での学びを通して、自己と他者とを尊重し、他者との対話を通して互いの理解を深め、他者と力を合わせて何かを作り上げていくことを意味する“協創”によって、社会に存在する様々な問題の解決を目指す志を有している。また、グローバルコミュニケーションにおいて求められる基礎的な英語力を有している。 3. 「経営管理論」「会計学」「商学」「経営工学」「経営情報学」に関する基礎を身につけ、それらを統合する組織運営に関する学びと、教養を高めることを通じて、自らの人間形成の基礎を培い、将来にわたり自らを成長させようとする心構えを有している。
<p>教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法： ホームページ） https://www.josai.ac.jp/media/03keiei2023.pdf</p> <p>（概要）経営学部マネジメント総合学科は、建学の精神「学問による人間形成」に基づき定めたディプロマポリシーに示す学修目標に、全ての学生が到達するように、以下の方針でカリキュラムを構築します。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 人間形成の過程で必要となる学びを提供するために、物事を多角的に捉える力、社会と学問との接点を探究する姿勢、人類文化社会へ貢献するための意識を養うという視点で全学共通カリキュラムを策定し、そのために必要な全学部共通科目を含む必修科目を学生の段階的な成長を促すように設定する。その評価は自己評価を基本とし、長期型ルーブリック*を用いた評価をポートフォリオ*に蓄積して学生自身による振り返りを促すとともに、教員による学びの促進を意図した形成的評価を随時実施する。 *長期型ルーブリック：ルーブリックは、学習目標の達成段階を質として表した表で、長期型ルーブリックは、入学から卒業までの成長を継続的に評価するのに有効なツールです。 2. “協創”による社会問題の解決に取り組むための、課題解決型授業、学内外連携授業などを必修科目として設定し、系統的にカリキュラムに組み込む。その評価にはルーブリックを用いた自己評価・ピア評価を含めた多様な視点を取り入れ、学習の成果物はポートフォリオ*に蓄積して、自身の振り返りを促す。英語力については、大学共通基本科目において、習熟度別のクラス編成を実施して、個人のレベルに合った学習を可能にする。 *ポートフォリオ：学習成果物を時系列に沿って蓄積していったファイルで、学生の段階的な成長を確認するために有効なツールです。 3. 経営学部マネジメント総合学科において求める専門性（経営管理論、会計学、商学、経営工学、経営情報学）と教養を獲得するという視点でカリキュラムを策定し、人間形成につながる学問の基礎を培う。その評価には、期末に記述式試験を実施するだけでなく、各科目の特性に合わせて、可否の判定を伴う総括的評価を実施する。その成果については GPA を用いて学生に対してフィードバックを行う。

<p>入学者の受入れに関する方針（公表方法：ホームページ） https://www.josai.ac.jp/media/03keiei2023.pdf</p> <p>（概要）経営学部マネジメント総合学科では、自身の発見や自身を大きく成長させるために必要な学びを提供し、物事を多角的に捉える力、社会と学問との接点を探究する姿勢、社会貢献への意識を養う教育を行います。そのため以下の資質・能力もしくは志向を有する人に入学を期待します。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 多様な事象に興味を持ち、人々の暮らしにおける課題・ニーズは何かという視点を持って、社会のルールに従って、責任感を持って行動し、自己の理想に向かって学ぶ意思を有する人 2. 他者との対話を通して自らを高め、他者と協力して社会の課題に取り組む意思を有する人 3. 自らが学ぼうとする経営学部マネジメント総合学科における専門的な学びを修め、教養を高める意欲があり、そのために必要な英語、国語、数学、社会科の学習に取り組んでいる人 <p>上記の経営学部マネジメント総合学科のアドミッション・ポリシーに基づき、多様な形態の入学試験によって、学力の三要素、すなわち、「知識・技能」、「思考力・判断力・表現力」、「主体性・多様性・協働性」などの資質・能力を評価し、経営学部マネジメント総合学科の教育目的に相応しい人材を選抜します。</p>
<p>学部等名 理学部</p> <p>教育研究上の目的（公表方法：ホームページ） https://www.josai.ac.jp/media/5_2023_rigaku_rinen_mokuteki.pdf</p> <p>（概要）理学部は、理学の本質を論理的・実証的に解析・考察する能力をもち、複雑な社会情勢に適用できる人材の育成を目指して教育研究を行う。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 数学科は、綿密な論理構成と数学的な思考法を社会に応用できる人材の育成を目指して教育研究を行う。 2. 化学科は、化学的思考力と実験技術を併せもち、社会に貢献できる人材の育成を目指して教育研究を行う。
<p>卒業又は修了の認定に関する方針（公表方法：ホームページ） https://www.josai.ac.jp/media/04rigaku2023.pdf</p> <p>（概要）城西大学理学部は、建学の精神「学問による人間形成」に基づき、理学の本質を論理的・実証的に解析、考察する能力を持ち、地域社会や国際社会の持続的な発展に貢献できる人物を育成します。本学科で学んだ学生がこのような人間に成長したことを、以下の資質・能力を身につけたかという視点で評価し、各学科の学位授与方針に従って卒業認定を行い、学士の学位を授与します。</p> <p>学修目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 学問における学びにおいて、高い思考力・判断力を形成するとともに、倫理観と責任感を身につけ、常に社会の状況と課題・ニーズに関心を持ち、人類文化の発展に貢献しようとする心構えを有している。 2. 理学部での数学や化学の学びを通して、自己と他者とを尊重し、他者との対話を通して互いの理解を深め、他者と力を合わせて何かを作り上げていくことを意味する“協創”によって、社会に存在する様々な問題の解決を目指す志を有している。また、グローバルコミュニケーションにおいて求められる基礎的な英語力を有している。 3. 理学部での数学や化学の学びを通して、実社会における自然科学や科学技術の発展に、主体的かつ協働的に貢献するための数学や化学の知識・技能の基礎を有している。 <p>教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：ホームページ） https://www.josai.ac.jp/media/04rigaku2023.pdf</p>

(概要) 城西大学理学部は、建学の精神「学問による人間形成」に基づき定めたディプロマポリシーに示す学修 目標に、全ての学生が到達するように、以下の方針でカリキュラムを構築します。

1. 人間形成の過程で必要となる学びを提供するために、物事を多角的に捉える力、社会と学問との接点 を探究する姿勢、人類文化社会へ貢献するための意識を養うという視点で全学共通カリキュラムを 策定し、そのために必要な全学部共通科目を含む必修科目を学生の段階的な成長を促すように設定 する。その評価は自己評価を基本とし、長期型ルーブリック*を用いた評価をポートフォリオ*に蓄積 して学生自身による振り返りを促すとともに、教員による学びの促進を意図した形式的評価を随時 実施する。*長期型ルーブリック：ルーブリックは、学習目標の達成段階を質として表した表で、長期型ルーブリックは、入学から卒業までの成長を継続的に評価するのに有効なツールです。*ポートフォリオ：学習成果物を時系列に沿って蓄積していったファイルで、学生の段階的な成長を確認するために 有効なツールです。

2. “協創“による社会問題の解決に取り組むために、全学部の学生が協力して課題解決を創造する「学内 外連携授業」を必修科目として各学年に設定する。その評価には、教員による評価だけでなく、ルー ブリックを用いた自己評価・ピア評価など多様な視点を取り入れ、学習の成果物はポートフォリオに 蓄積して、自身の振り返りを促す。英語力については、大学共通基本科目である「コミュニケーション基礎英語」において、習熟度別のクラス編成を実施して、個人のレベルに合った学習を可能にする。

3. 理学の柱となる数学科と化学科において、綿密な論理構成と数学的な思考法、または化学的思考能力 と実験技術を併せ持ち、複雑な実社会に対応できる科学的な思考力を獲得するという視点でカリキ ュラムを策定する。その評価方法には、学生の学習活動の改善を目的とした形成的評価を取り入れ、 学期末に記述式試験を実施するだけでなく、各科目の特性に合わせた様々な 評価方法を適用して、合否判定を伴う総括的評価を実施する。その成果については GPA を用いて学 生に対してフィードバックを行う。具体的には、各学科で設定した「必修の専門科目」において、各 学科で求める専門的な知識・技能の基礎を身につける。そして、それらを地域社会や国際社会において役立てることができるように、「数学セミナー」や「卒業研究」、「化学ゼミナール・コロキウム」 を最先端の知識・技術の学びの場として設定する。この他に、情報関連科目を含む「選択の専門科目」 を設定し、これらの科目を組み合わせることで、より深く、また幅の広い専門性を培う。

また、理学部での学びで得た知識・技能を他者への教育という観点から地域社会等へ貢献することを 希望する者のために、教員養成を目的とした教育の基礎的理解に関する科目と教科及び教育の指導 法に関する科目を設定する。その評価は教員養成に重要なアクティブラーニングを取り入れた形成 的評価によって行う。さらに、各科目の特性に合わせた様々な評価方法を適用して、合否判定を伴う 総括的評価を実施する。また、「履修カルテ」において自己評価を行い、ポートフォリオとして活用 する。

入学者の受入れに関する方針 (公表方法：ホームページ)

<https://www.josai.ac.jp/media/04rigaku2023.pdf>

(概要) 城西大学理学部は、自身の発見や自身を大きく成長させるために必要な学びを提供し、物事を多角的に 捉える力、社会と学問との接点を探究する姿勢、社会貢献への意識を養う教育を行います。そのため以下 の資質・能力もしくは志向を有する人に入学を期待します。

求める人物像

1. 多様な事象に興味を持ち、人々の暮らしにおける課題・ニーズは何かという視点を持って、社会のルールに従って、責任感を持って行動し、自己の理想に向かって学ぶ意思を有する人

2. 他者との対話を通して自らを高め、他者と協力して社会の課題に取り組む意思を有する人

3. 理学部の特徴を理解した上で、各学科(数学科・化学科)での関連学問分野に興味があり、専門知識・技能を高める意欲を持ち、そのために必要な基礎学力と専門教育に関する

教科・科目の学習に取り組んでいる人
 理学部では各学科のアドミッション・ポリシーに基づき、多様な形態の入学試験によって、学力の三要素、すなわち、「知識・技能」、「思考力・判断力・表現力」、「主体性・多様性・協働性」などの資質・能力を評価し、各学科の教育目的に相応しい人材を選抜します。

学部等名 薬学部

教育研究上の目的（公表方法：ホームページ）
https://www.josai.ac.jp/media/6_2023_yakugaku_rinen_mokuteki.pdf

（概要）薬学部は、主観的 QOL（quality of life：生活と人生の質）に関わる領域を広く研究し、人々が生活と人生の質を高く維持し、健康のより良い状態を目指すことを支援する人材の育成を目指します。

1. 薬学科は、基本的な薬学の知識に加え、教育研究を通して医療人としての専門知識と実践力、さらには倫理性を身につけ、人々の健康増進を積極的に支援する薬剤師の育成を目指します。
2. 薬科学科は、基本的な薬科学の知識に加え、教育研究を通して研究者・技術者としての専門知識と実践力、さらには倫理性を身につけ、社会に貢献できる人材の育成を目指します。
3. 医療栄養学科は、教育研究を通して人々の健康増進を支援する管理栄養士の育成を目指し、さらに医療における栄養学の高度化を目指します。

卒業又は修了の認定に関する方針（公表方法：ホームページ）
<https://www.josai.ac.jp/media/07yakugakubu2023.pdf>

（概要）城西大学薬学部は、建学の精神「学問による人間形成」に基づき、人々の健康な生活を護り、地域や社会の発展に薬学分野の専門家として貢献できる人物を育成します。本学部で学んだ学生がこのような人間に成長したことを、以下の資質・能力を身につけたかという視点で評価を行い、学士の学位を授与します。

1. 学問における学びを通じて、教養を高め、自らの人間形成の基礎を培い、倫理観・責任感を身につけ、常に社会の状況と課題・ニーズに関心を持ち、人類文化の発展に貢献しようとする心構えを有している。
2. 大学での学びを通して、自己と他者とを尊重し、他者との対話を通して互いの理解を深め、他者と力を合わせて何かを作り上げていくことを意味する“協創”によって、社会に存在する様々な問題の解決を目指す志を有している。また、グローバルコミュニケーションにおいて求められる基礎的な英語力を有している。
3. 薬学に関する学びにより、社会のニーズに対応した健康や医療に関する幅広い知識と技能を身につけるとともに、思考力・判断力を高め、将来にわたり薬学分野の専門家として自らを成長させようとする心構えを有している。

教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：ホームページ）
<https://www.josai.ac.jp/media/07yakugakubu2023.pdf>

（概要）城西大学薬学部は、建学の精神「学問による人間形成」に基づき定めたディプロマ・ポリシーに示す学修目標に、全ての学生が到達するように、以下の方針でカリキュラムを構築します。

1. 人間形成の過程で必要となる学びを提供するために、物事を多角的に捉える力、社会と学問との接点を探求する姿勢、人類文化社会へ貢献するための意識を養うという視点で全学共通科目を含む必修科目を学生の段階的な成長を促すように各学年に設定する。その評価は自己評価を基本とし、長期型ルーブリック*を用いた評価をポートフォリオ*に蓄積して学生自身による振り返りを促すとともに、教員による学びの促進を意図した形成的評価を随時実施する。*長期型ルーブリック：ルーブリックは、学習目標の達成段階を質として表した表で、長期型ルーブリックは、入学から卒業までの成長を継続的に評価するのに有効なツールです。*ポートフォリオ：学習成果物を時系列に沿って蓄積していったフ

<p>ファイルで、学生の段階的な成長を確認するために有効なツールです。</p> <p>2. “協創”による社会問題の解決に取り組むために、全学部の学生が協力して課題解決を創造する学内外連携型などの必修科目を各学年に設定する。その評価には、教員による評価だけでなく、ルーブリックを用いた自己評価・ピア評価など多様な視点を取り入れ、学習の成果物はポートフォリオに蓄積して、自身の振り返りを促す。英語力については、大学共通基本科目において習熟度別のクラス編成を実施して、個人のレベルに合った学習を可能にする。</p> <p>3. 薬学分野の専門家として求められる高い専門性を獲得するという視点でカリキュラムを策定する。その評価は形成的評価を取り入れ、各科目の特性に合わせて総括的に実施し、GPA を用いて学生に対してフィードバックを行う。具体的には、初年次教育やキャリア教育科目において、学習方法や学生生活の指導に加えて自立した社会人としての意識づけを行い、さらに各学科で設定した実習を含む「必修の専門科目」において各学科で求める専門的な知識・技能の基礎を身につける。そして、それらを人々の健康な生活を護ることに役立てることができるように、「卒業研究」や医療現場での実習を応用的な学びの場として設定する。この他、「選択の専門科目」を設定し、これらの科目を組み合わせることで学ぶことにより、より深く、また幅の広い専門性を培う。選択科目の評価は、教員による評価だけでなく、ルーブリックを用いた学生自身による自己評価を取り入れることを基本とする。</p>
<p>入学者の受入れに関する方針（公表方法：ホームページ）</p> <p>https://www.josai.ac.jp/media/07yakugakubu2023.pdf</p> <p>（概要）城西大学薬学部では、自身の発見や自身を大きく成長させるために必要な学びを提供し、物事を多角的に捉える力、社会と学問との接点を探求する姿勢、人類文化社会へ貢献するための意識を養う教育を行います。そのために以下の資質・能力もしくは志向を有する人に入学者を期待します。</p> <p>求める人物像</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 多様な事象に興味を持ち、人々の暮らしにおける課題・ニーズは何かという視点を持って、社会のルールに従って、責任感を持って行動し、自己の理想に向かって学ぶ意思を有する人 2. 他者との対話を通して自らを高め、他者と協力して社会の課題に取り組む意思を有する人 3. 薬学部における専門的な学びを修め、教養を高める意欲があり、そのために必要な各学科で指定する科目の学習に取り組んでいる人

②教育研究上の基本組織に関すること

<p>公表方法：ホームページ</p> <p>https://www.josai.ac.jp/about/operation/organization/</p>

③教員組織、教員の数並びに各教員が有する学位及び業績に関すること

a. 教員数（本務者）							
学部等の組織の名称	学長・副学長	教授	准教授	講師	助教	助手 その他	計
—	5人	—					5人
経済学部	—	10人	5人	人	4人	人	19人
現代政策学部		7人	8人	人	3人	人	18人
経営学部		15人	7人	人	9人	人	31人
理学部		22人	11人	人	4人	人	37人
薬学部（4年制）		15人	10人	人	10人	5人	40人
薬学部（6年制）		21人	13人	人	19人	5人	58人
教養部		2人	4人	人	2人	人	8人
その他	—	1人	2人	人	3人	人	6人
b. 教員数（兼務者）							
学長・副学長			学長・副学長以外の教員				計
1人			180人				181人
各教員の有する学位及び業績 （教員データベース等）		公表方法： https://researcher.josai.ac.jp/search?m=home&l=ja					
c. FD（ファカルティ・ディベロップメント）の状況（任意記載事項）							

④入学者の数、収容定員及び在学する学生の数、卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況に関すること

a. 入学者の数、収容定員、在学する学生の数等								
学部等名	入学定員 (a)	入学者数 (b)	b/a	収容定員 (c)	在学生数 (d)	d/c	編入学 定員	編入学 者数
経済学部	300人	262人	87.3%	1,200人	1,199人	99.9%	欠員の範囲	0人
現代政策学部	250人	153人	61.2%	1,000人	882人	88.2%	欠員の範囲	2人
経営学部	500人	505人	101%	2,000人	2,028人	101.4%	欠員の範囲	12人
理学部	210人	213人	101.4%	840人	818人	97.4%	欠員の範囲	0人
薬学部（4年制）	150人	101人	67.3%	600人	473人	78.8%	欠員の範囲	0人
薬学部（6年制）	250人	173人	69.2%	1,500人	1,193人	79.5%	欠員の範囲	0人
合計	1,660人	1,407人	84.8%	7,140人	6,593人	92.3%	欠員の範囲	14人
(備考)								

b. 卒業生数・修了者数、進学者数、就職者数				
学部等名	卒業生数・修了者数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
経済	308人 (100%)	4人 (1.3%)	269人 (87.3%)	35人 (11.4%)
現代政策	242人 (100%)	14人 (5.8%)	210人 (86.8%)	18人 (7.4%)
経営	474人 (100%)	15人 (3.2%)	417人 (88.0%)	42人 (8.8%)
理	175人 (100%)	21人 (12%)	147人 (84.0%)	7人 (4%)
薬	324人 (100%)	35人 (10.8%)	268人 (82.7%)	21人 (6.5%)
合計	1,523人 (100%)	89人 (5.8%)	1311人 (86.1%)	123人 (8.1%)
<p>(主な進学先・就職先) (任意記載事項)</p> <p>(進学先)</p> <p>【経済学部】 大阪大学大学院</p> <p>【現代政策学部】 一橋大学大学院 大阪大学大学院 アメリカコーネル大学大学院 明治大学大学院 城西大学大学院</p> <p>【経営学部】 法政大学大学院 立命館大学大学院 東洋大学大学院 國學院大學大学院 順天堂大学大学院 上越教育大学大学院 情報セキュリティ大学院大学 大原大学院大学 城西大学大学院</p> <p>【理学部】 東邦大学大学院 立正大学大学院 上越教育大学大学院 神戸大学大学院 城西大学大学院</p> <p>【薬学部】 城西大学大学院</p> <p>(就職先)</p> <p>【経済学部】 株式会社武蔵野銀行、株式会社東和銀行、株式会社栃木銀行、中央労働金庫、埼玉縣信用金庫、飯能信用金庫、興産信用金庫、昭和信用金庫、東京信用金庫、株式会社クラレ 新潟事業所、ヤマト運輸株式会社、株式会社資生堂、株式会社ニトリ、加賀電子株式会社、西武建設株式会社、渡辺パイプ株式会社、キーコーヒー株式会社、株式会社コスモス薬品、NX商事株式会社、株式会社バルク、株式会社ヤオコー、四国旅客鉄道株式会社、株式会社カナデン、株式会社電通総研 IT、トランスコスモス株式会社、AGS株式会社、株式会社アーベルソフト、野村不動産ソリューションズ株式会社、コマツカスタマーサポート株式会社、ブリヂストンタイヤソリューションジャパン株式会社、三菱UFJ不動産販売株式会社、株式会社一条工務店、株式会社JALグランドサービス、株式会社ANAケータリングサービス、株式会社JR東日本環境アクセス、株式会社JR東日本ステーションサービス、株式会社新潟日立、上尾中央医科グループ、埼玉県庁、東京消防庁、埼玉県警察本部、警視庁、長野県警察、坂戸市役所、狭山市市役所、三芳町役場、春日部市役所、館林市市役所、学校法人関東学院、埼玉県公立学校教員、獨協医科大学 他</p> <p>【経営学部】 株式会社三井住友銀行、株式会社東和銀行、株式会社北陸銀行、株式会社大東銀行、株式会社栃木銀行、中央労働金庫、西武信用金庫、山梨県信用農業協同組合連合会、飯能信用金庫、川口信用金庫、株式会社北陸電機商会、日本郵便株式会社(日本郵政グループ) 中国電力株式会社、住友電気工業株式会社、青山商事株式会社、東日本高速道路株式会社(NEXCO東日本)、ヤマト運輸株式会社、JCOM株式会社、トランスコスモス株式会社、水戸証券株式会社、西武建設株式会社、渡辺パイプ株式会社、株式会社日伝、しのもめ信用金庫、株式会社バルク、住友不動産販売株式会社、カネコ種苗株式会社、上尾中央医科グループ(AMG)、株式会社鷺宮製作所、貝印株式会社、日立空調ソリューションズ株式会社、株式会社三越伊勢丹ヒューマン・ソリューションズ、東急リゾーツ&ステイ株式会社、パナソニック防災システムズ株式会社、東京労働局、埼玉県公立学校教員、東京消防庁、埼玉県警察、静岡県警察本部、坂戸市役所、朝霞市役所、日本赤十字社 他</p>				

【現代政策学部】

埼玉県農業共済組合、巣鴨信用金庫、第一勧業信用組合、株式会社山梨中央銀行、東京信用金庫、ぐんまみらい信用組合、いちよし証券株式会社、水戸信用金庫、株式会社明治、株式会社関電工、渡辺パイプ株式会社、北海道旅客鉄道株式会社、トヨタモビリティ東京株式会社、株式会社ヤマダホールディングス、株式会社ユナイテッドアローズ、ルイ・ヴィトンジャパン株式会社、株式会社NTTデータSMS、富士ソフトサービスビューロ株式会社、株式会社東急スポーツオアシス、橋本産業株式会社、東電タウンプランニング株式会社、大林ファシリティーズ株式会社、東武ステーションサービス株式会社、中部国際空港旅客サービス株式会社、上尾中央医科グループ（AMG）、戸田中央メディカルケアグループ、アイングループ、長野県庁、千葉県公立学校教員、東松山市役所、春日部市役所、宮代町役場、宇都宮市役所、東御市役所、小布施町役場、宮田村役場、白河地方広域市町村圏消防、市貝町役場、大田原市役所、防衛省自衛隊、さいたま市消防本部、魚沼市役所、大熊町役場、群馬県警察、長野県警察 他

【理学部】

株式会社横浜銀行、株式会社静岡銀行、株式会社東和銀行、株式会社北日本銀行、朝日信用金庫、埼玉県公立学校教員、栃木県公立学校教員、千葉県公立学校教員、山梨県公立学校教員、北海道公立学校教員、宮城県公立学校教員、東洋合成工業株式会社、第一屋製パン株式会社、株式会社明治、株式会社モスフードサービス、小倉クラッチ株式会社、株式会社コロナ、日本コルマー株式会社、津田工業株式会社、株式会社ヨーユーラボ、イケダガラス株式会社、東洋エアゾール工業株式会社、株式会社日立社会情報サービス、トーテックアメニティ株式会社、三菱電機ITソリューションズ株式会社、ブリヂストンソフトウェア株式会社、株式会社アイ・ティー・ワン（三菱総研グループ）、株式会社システムデザイン、株式会社アーベルソフト、株式会社アイオス、富士ソフト株式会社、蓼科情報株式会社、KDDI S o n i c e F a l c o n 株式会社 他

【薬学部】

兵庫県庁、群馬県庁、株式会社明治、コーセーインダストリーズ株式会社、中本パックス株式会社、株式会社ハーバー研究所、株式会社保健科学研究所、P&Gプレステージ(同)、株式会社セキ薬品、株式会社富士薬品、株式会社ウェルパーク、株式会社スギ薬局（スギ薬局グループ）、株式会社セキ薬品、株式会社マツモトキヨシ、株式会社クスリのアオキ、株式会社カワチ薬品、株式会社サンドラッグ、株式会社メフォス、株式会社LEOC、株式会社ローソン、株式会社東京天竜、エームサービス株式会社、日清医療食品株式会社、シダックス株式会社、日本調剤株式会社、アイングループ、株式会社ファーマみらい、株式会社フォーラル、クオール株式会社、I & H株式会社、株式会社アイアイファーマシー、医療生協さいたま 埼玉協同病院、JAとりで総合医療センター、西部総合病院IMSグループ（板橋中央総合病院グループ）、医療法人社団愛友会 上尾中央総合病院、医療法人社団協友会 船橋総合病院、医療法人社団松弘会 三愛病院、医療法人社団常仁会 牛久愛和総合病院、医療法人社団筑波記念会 筑波記念病院、医療法人社団武蔵野会 新座志木中央総合病院、医療法人社団輔正会、医療法人上毛会 伊勢崎福島病院、医療法人仁学会 里村クリニック
戸田中央メディカルケアグループ、公益社団法人地域医療振興協会 横須賀市立うわまち病院、彩の国東大宮メディカルセンター、埼玉医科大学病院、埼玉医療生活協同組合 羽生総合病院、社会医療法人社団埼玉巨樹の会 新久喜総合病院、順天堂大学医学部附属静岡病院、松代歯科医院、森山記念病院、深谷赤十字病院、静岡徳洲会病院、大森赤十字病院、地方独立行政法人 東京都立病院機構、地方独立行政法人埼玉県立病院機構、飯田市立病院、学校法人城西大学、株式会社星野リゾート 他

（備考）

c. 修業年限期間内に卒業又は修了する学生の割合、留年者数、中途退学者数（任意記載事項）					
学部等名	入学者数	修業年限期間内 卒業・修了者数	留年者数	中途退学者数	その他
	人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
	人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
合計	人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
(備考)					

⑤授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画に関すること

(概要) シラバスにおいて、科目担当教員が授業の目的・目標、学修成果、到達目標、授業毎に講義の内容等を公表している。 さらに、授業の方法や成績評価方法、オフィスアワーの時間帯、居室等も記載している。

⑥学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準に関すること

(概要) 年度末に開催される各学部の卒業判定教授会において、最終学年（4年生（薬学科は6年生））の成績評価表を基に、それぞれの学部にて定められた卒業要件の科目の成績が適切に評価されているかの確認をしたうえで、卒業の可否を決定する。〈各学部において定められた分野の科目の評価を確認〉 なお、学生に対する卒業可否についての発表は「卒業発表日」（年間行事予定表に掲載）に行う。				
学部名	学科名	卒業又は修了に必要な となる単位数	GPA制度の採用 (任意記載事項)	履修単位の登録上限 (任意記載事項)
経済学部	経済学科	124 単位	④・無	半期 22 単位
現代政策学部	社会経済 システム学科	124 単位	④・無	半期 22 単位
経営学部	マネジメント 総合学科	124 単位	④・無	半期 22 単位
理学部	数学科	124 単位	④・無	半期 23 単位
	化学科	124 単位	④・無	半期 22 単位
薬学部	薬学科	186 単位	④・無	1～3 年次半期 24 単位 4～6 年次半期 22 単位
	薬科学科	124 単位	④・無	半期 22 単位
	医療栄養学科	130 単位	④・無	1、3、4 年次半期 24 単位 2 年次半期 26 単位
GPAの活用状況（任意記載事項）		公表方法：		
学生の学修状況に係る参考情報 (任意記載事項)		公表方法：		

⑦校地、校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境に関すること

公表方法：ホームページ内で公表している 校舎配置図 https://www.josai.ac.jp/about/campus/index.html ガイドブック https://edu.career-tasu.jp/p/digital_pamph/frame.aspx?id=7516400-0-27%20&FL=0

⑧授業料、入学金その他の大学等が徴収する費用に関すること

学部名	学科名	授業料 (年間)	入学金	その他	備考(任意記載事項)
経済学部	経済学科	700,000円	270,000円	284,000円	施設設備費
現代政策学部	社会経済システム学科				
経営学部	マネジメント総合学科			120,000円	休学中の在籍料
理学部	数学科	880,000円	270,000円	284,000円 120,000円	施設設備費 休学中の在籍料
	化学科	963,000円	300,000円	402,000円 120,000円	施設設備費 休学中の在籍料
薬学部	薬学科	1,460,000円	300,000円	511,000円 (2年目以降は611,000円) 120,000円	施設設備費 休学中の在籍料
	薬科学科	1,260,000円	300,000円	486,000円 120,000円	施設設備費 休学中の在籍料
	医療栄養学科	1,380,000円	300,000円	306,000円 (2年目以降は486,000円) 120,000円	施設設備費 休学中の在籍料

⑨大学等が行う学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援に関すること

a. 学生の修学に係る支援に関する取組
(概要) ①学内奨学金として、入学成績上位者に対する授業料減免制度、学業成績・人物優秀者に対する授業料減免制度、本学独自制度による海外留学に伴う奨励制度、海外からの留学生に対する授業料減免制度、学費支弁者の死亡による授業料・施設整備費の全額補助制度があります。 ②学外奨学金として、日本学生支援機構、地方公共団体、民間団体の奨学金を活用し支援を行っている。 ③障がい学生には、学生サポート、学内のバリアフリー化、支援申請に基づく支援等、可能な限りの支援を行っている。 ④学部学生には、選考により、教育的配慮の下に学内業務に従事させ、経済的援助を行い、修学の奨励を図っている。(ワークスタディ・プログラム制度) ⑤図書館においては、論文やレポートの書き方のアドバイス、文献の探し方やパソコンの使い方を教える、学生アドバイザーを配置し学習支援にあたっている。
b. 進路選択に係る支援に関する取組
(概要) 本学では、就職支援のためにキャリア委員会を組織し、全学的事務組織としてのキャリアサポートセンターと連携しながら、進路・就職支援活動を進めています。キャリア支援委員は各学部に担当教員がおり、教授会等で就職状況を報告し、ゼミナール、研究室担当教員と連携を取りながら、個々の学生の進路決定活動を支援しています。 さらに、本学ホームページ (http://www.josai.ac.jp/career/index.html) を利用して就

職活動関連情報を提供し、学生個人を支援するウェブサイト「城西インターンシップ・求人管理システム（キャリアタス UC）」でも提供しています。

上記の環境をもとに、学生一人ひとりが納得のいく進路決定ができるよう、様々なサポートをします。具体的な内容は、きめ細かな個別指導、先を見据えたキャリア教育、各種ガイダンスの開催、企業の採用活動状況を鑑みた時期での情報提供の4点にあります。

①全学共通基盤科目の実施

本学は、キャリア教育の一環として、文系3学部、理系2学部という様々な目的をもった学生同士が触れ合うよう、学科の枠を越えた環境でフルアクティブラーニングができる科目を開講しました。全23クラス一斉に開講しています。その他、各学科の特色をもとにプログラムされたカリキュラムを構成しています。

②きめ細かな個別指導

各学年と個人の考えや状態に合わせた助言をキャリアカウンセラー(国家資格キャリアコンサルタント資格保有職員)が実施します。その体制は、各学部担当を設け、全学生の把握できるようにしています。主な助言は、進路・職業の選択の相談からエントリーシート・履歴書の書き方・添削、模擬面接等です。個人相談は、状況に応じて、「対面もしくはオンラインの選択式」を採用しており、自宅が遠方である学生でも利用しやすい環境を整備しています。

③先を見据えた各種ガイダンスの開催

学部学科ごとに適切なタイミングに複数回、全学生を対象にしたガイダンス実施の他、大きく分けて低学年向け（学部1年生～2年生）、就職活動の準備学年向け（学部3年生、大学院1年生～3年生）、就職活動生向け（学部4年生、大学院2年生～4年生）と3つに分かれます。低学年向けでは、課題解決型の講座、職業適性検査、SPI模試などで就職意識の醸成を図る計画、就職活動の準備学年向けでは、履歴書・エントリーシートの作成方法や、自己分析、企業研究の仕方や必要な情報提供など実践的な内容で開催します。就職活動生向けでは、企業研究会を時期に応じて2回の開催、求人紹介会をハローワークと連携し開催をしています。

今年度より全学科に向けオリエンテーション期間での実施をスタートし、5学科に約50講座の実施をしました。

④企業の採用活動状況を鑑みた時期での情報提供

「城西インターンシップ・求人管理システム」を活用して、最新の求人・インターンシップ・対策講座・各種ガイダンス情報の提供と申込受付、相談ができる時間を公開し、提供を行っています。

■資格支援

本学キャリアサポートセンター内にJUキャリアラウンジという資格取得や公務員対策講座を実施する専門部署を組織しています。今年度開講予定の講座は以下の通りです。

詳しくは以下HPをご覧ください。

<https://josai-shikaku.jp/>

・公務員講座

公務員入門（1年生対象）

公務員（2年生対象）

公務員（民間併願）

公務員（警察・消防）

公務員（教養）

公務員（教養・専門）

・資格対策講座

日商簿記3級・2級

FP3級・2級

販売士3級・2級

秘書2級・準1級

TOEIC®L&R（入門）

TOEIC®L&R（500点）

Microsoft Office Specialist

<p>ビジネス統計スペシャリスト (Excel®分析ベーシック)</p> <p>IT パスポート</p> <p>基本情報技術者</p> <p>Illustrator®クリエイター認定試験対策</p> <p>色彩検定 3 級</p> <p>国内旅行業管理者</p> <p>宅地建物取引士</p> <p>登録販売者</p> <p>SPI 対策</p> <p>・教員免許状</p> <p>中学校、高等学校教諭第 1 種免許状 (取得できる種別は学科で異なる)</p>
<p>c. 学生の心身の健康等に係る支援に関する取組</p> <p>(概要)</p> <p>①保健センターは看護師が定期健康診断、突発的な怪我や病気等に対応を行っている。</p> <p>(ア) 授業中に気分が悪くなったとき</p> <p>(イ) 課外活動中の怪我をしたとき</p> <p>(ウ) 持病をもっている学生の健康管理</p> <p>(エ) 週一回内科医による健康相談が可能です。</p> <p>(オ) 神経科・心療内科医師による悩みごと相談が可能</p> <p>②学生相談室は、公認心理師、臨床心理士が学生の悩みごとや心配ごとなどに対応をしている。</p> <p>(ア) 学生支援が必要な学生に対し、担当学部、学科の教職員と調整を行い授業が受けられるよう支援</p> <p>(イ) 課外活動、学業のこと、友人関係のことなどの悩みごとなど対応</p>

⑩教育研究活動等の状況についての情報の公表の方法

<p>公表方法：ホームページ https://www.josai.ac.jp/about/information/</p>
--

備考 この用紙の大きさは、日本産業規格 A 4 とする。

(別紙)

※ この別紙は、更新確認申請書を提出する場合に提出すること。

※ 以下に掲げる人数を記載すべき全ての欄（合計欄を含む。）について、該当する人数が1人以上10人以下の場合には、当該欄に「-」を記載すること。該当する人数が0人の場合には、「0人」と記載すること。

学校コード (13桁)	F111310102094
学校名 (〇〇大学 等)	城西大学
設置者名 (学校法人〇〇学園 等)	学校法人 城西大学

1. 前年度の授業料等減免対象者及び給付奨学生の数

		前半期	後半期	年間
支援対象者（家計急変による者を除く）		608人	572人	640人
内訳	第Ⅰ区分	347人	331人	
	第Ⅱ区分	148人	148人	
	第Ⅲ区分	113人	93人	
	第Ⅳ区分	0人	0人	
家計急変による支援対象者（年間）				-
合計（年間）				640人
(備考)				

※ 本表において、第Ⅰ区分、第Ⅱ区分、第Ⅲ区分、第Ⅳ区分とは、それぞれ大学等における修学の支援に関する法律施行令（令和元年政令第49号）第2条第1項第1号、第2号、第3号、第4号に掲げる区分をいう。

※ 備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

2. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の取消しを受けた者及び給付奨学生認定の取消しを受けた者の数

(1) 偽りその他不正の手段により授業料等減免又は学資支給金の支給を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

年間	0人
----	----

(2) 適格認定における学業成績の判定の結果、学業成績が廃止の区分に該当したことにより認定の取消しを受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
修業年限で卒業又は修了できないことが確定	24人	人	人
修得単位数が標準単位数の5割以下 （単位制によらない専門学校にあっては、履修科目の単位時間数が標準時間数の5割以下）	-	人	人
出席率が5割以下その他学修意欲が著しく低い状況	-	人	人
「警告」の区分に連続して該当	0人	人	人
計	24人	人	人
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

上記の（2）のうち、学業成績が著しく不良であると認められる者であって、当該学業成績が著しく不良であることについて災害、傷病その他やむを得ない事由があると認められず、遑って認定の効力を失った者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）		
	年間	前半期	後半期	人
	0人	人	人	人

（3）退学又は停学（期間の定めのないもの又は3月以上の期間のものに限る。）の処分を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

退学	13人
3月以上の停学	0人
年間計	13人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

3. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の効力の停止を受けた者及び給付奨学生認定の効力の停止を受けた者の数

停学（3月未満の期間のものに限る。）又は訓告の処分を受けたことにより認定の効力の停止を受けた者の数

3月未満の停学	0人
訓告	0人
年間計	0人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

4. 適格認定における学業成績の判定の結果、警告を受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のもの限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
修得単位数が標準単位数の6割以下 (単位制によらない専門学校にあっては、履修科目の単位時間数が標準時間数の6割以下)	-	人	人
GPA等が下位4分の1	63人	人	人
出席率が8割以下その他学修意欲が低い状況	0人	人	人
計	63人	人	人
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。